

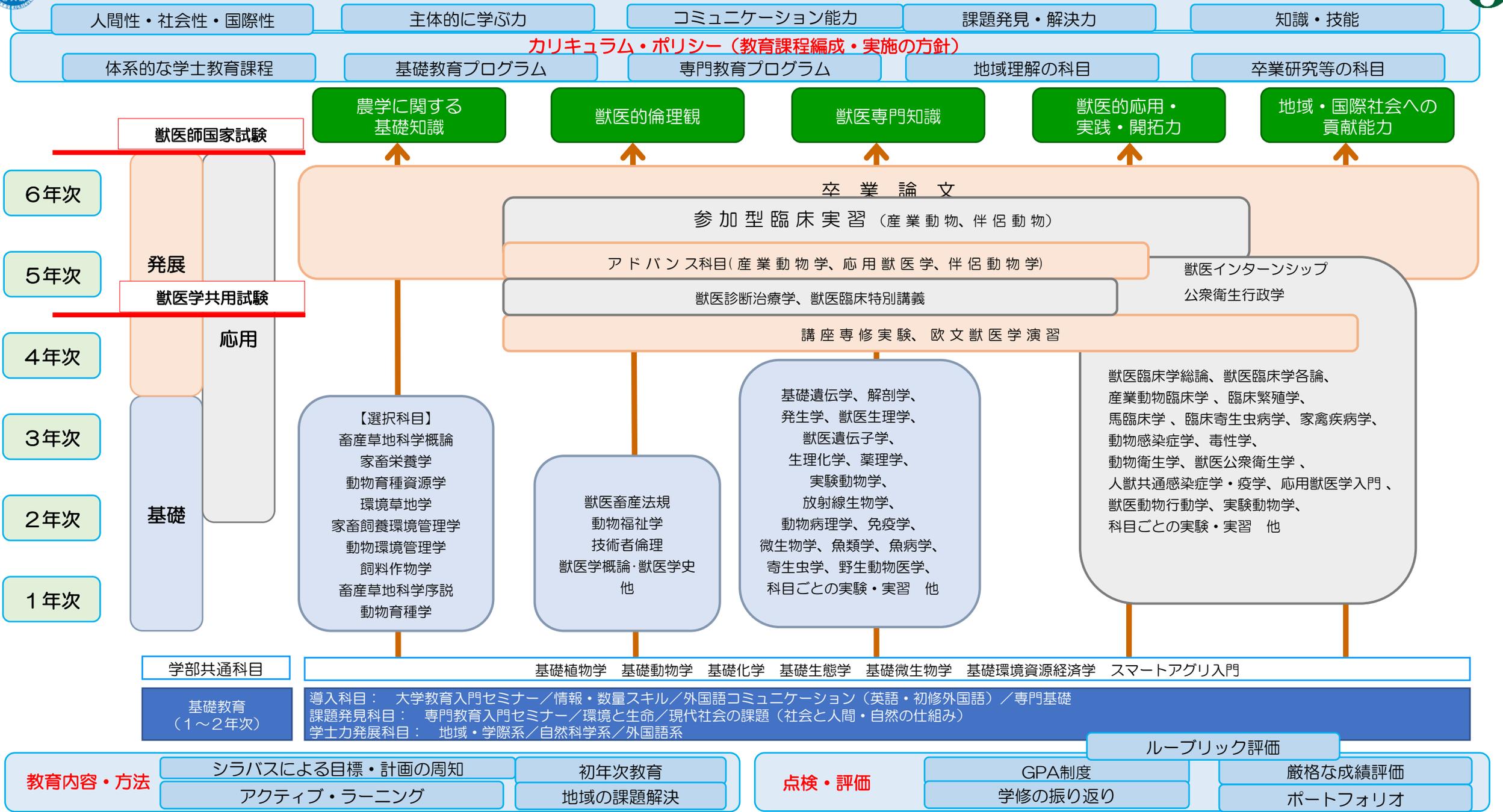


# 宮崎大学における学部、大学院および 卒後教育体制の現状と展望

末吉 益雄（宮崎大・農・獣医・産業動物衛生）

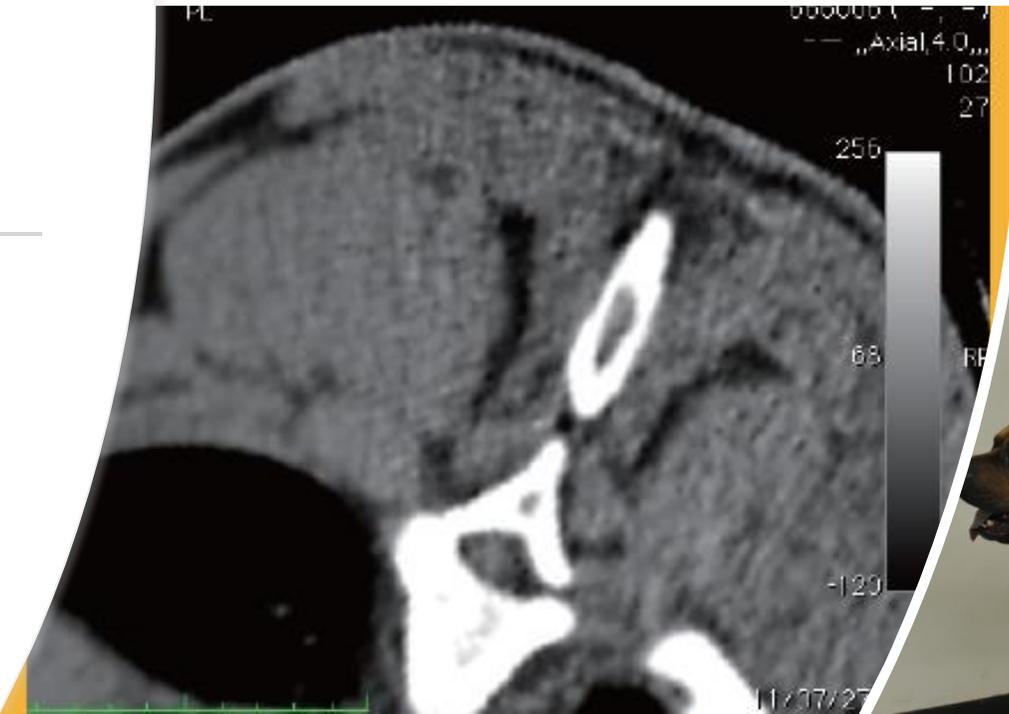


宮崎大学では、以下の素養を身に付けるとともに、**【 獣医学科 】のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）**を達成し、所定の期間在籍し、基準となる単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位（学士号）を授与します。





(CT撮影の様子)



# 臨床実習



伴侶動物の臨床

# 産業動物 の臨床



魚病学  
畜産学  
牧場実習

⇒ 農学部内での教育完備 + テニユアトラック制度の活用など  
⇒ 若手研究者育成 + 大学院 + 学部学生 ⇒ 教育強化

国立大学法人 宮崎大学農学部  
海洋生物環境学科



キャンパスの牛を使用



宮崎大学農学部  
畜産草地科学科



附属牧場の牛を使用



附属牧場の豚を使用

# 「産業動物」の冠名を持つ研究室

産業動物衛生学

産業動物伝染病防疫学

産業動物内科学

産業動物臨床繁殖学

⇒ 産業動物学教育強化



消石灰散布実習



全身用X線CT診断装置  
Aquilion Lightning TSX-035A



牛の削蹄実習



# 参加型実践実習

## 例) 動物衛生学実習

- ⇒家畜保健衛生所
- へい獣処理場
- 養鶏場
- 畜産試験場



# 産業動物臨床実習

## ⇒NOSAIでの少人数実習が地域関係機関と協同・継続



生産者とのコミュニケーション  
(稟告聴取, その日の検診内容の説明)

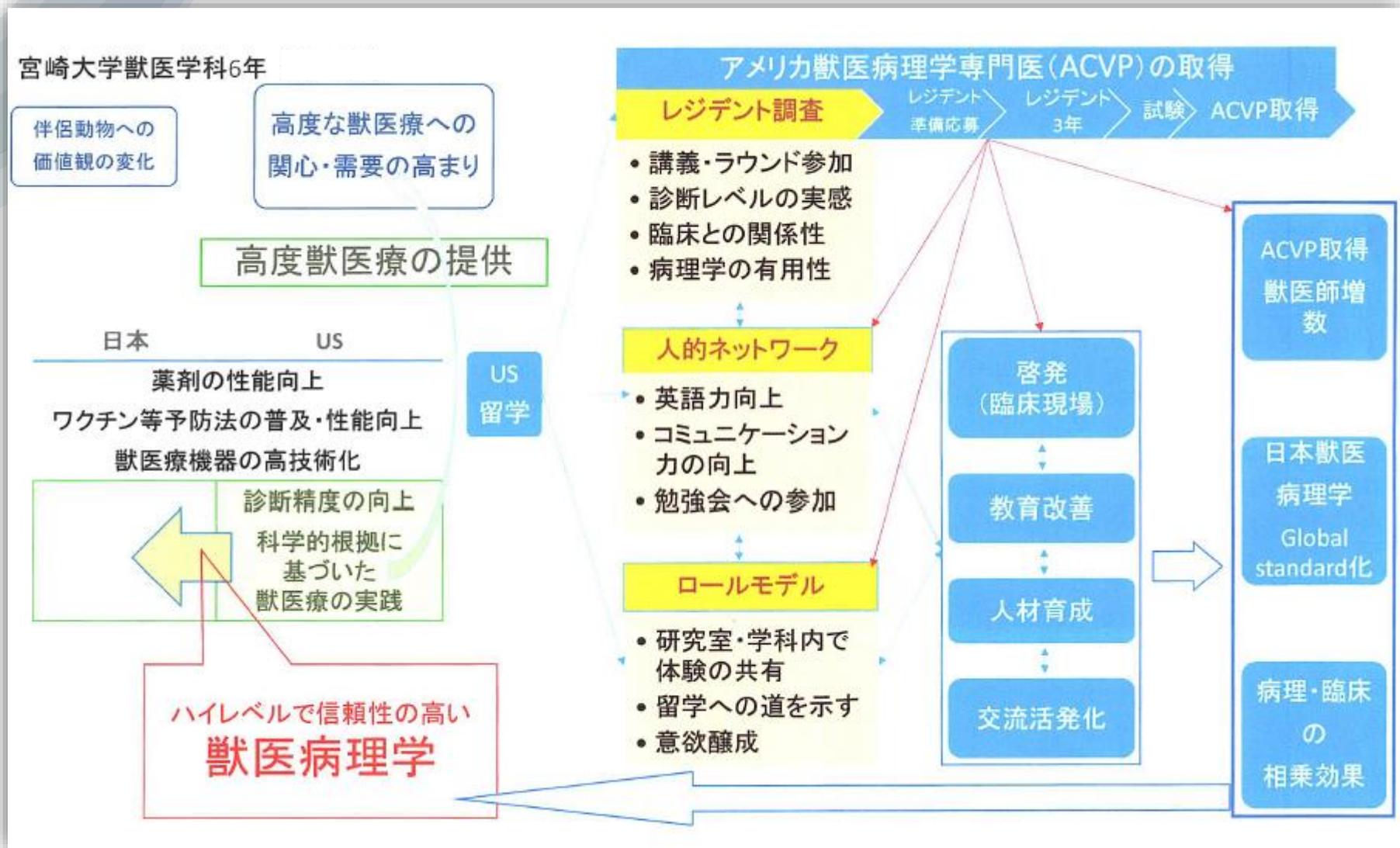


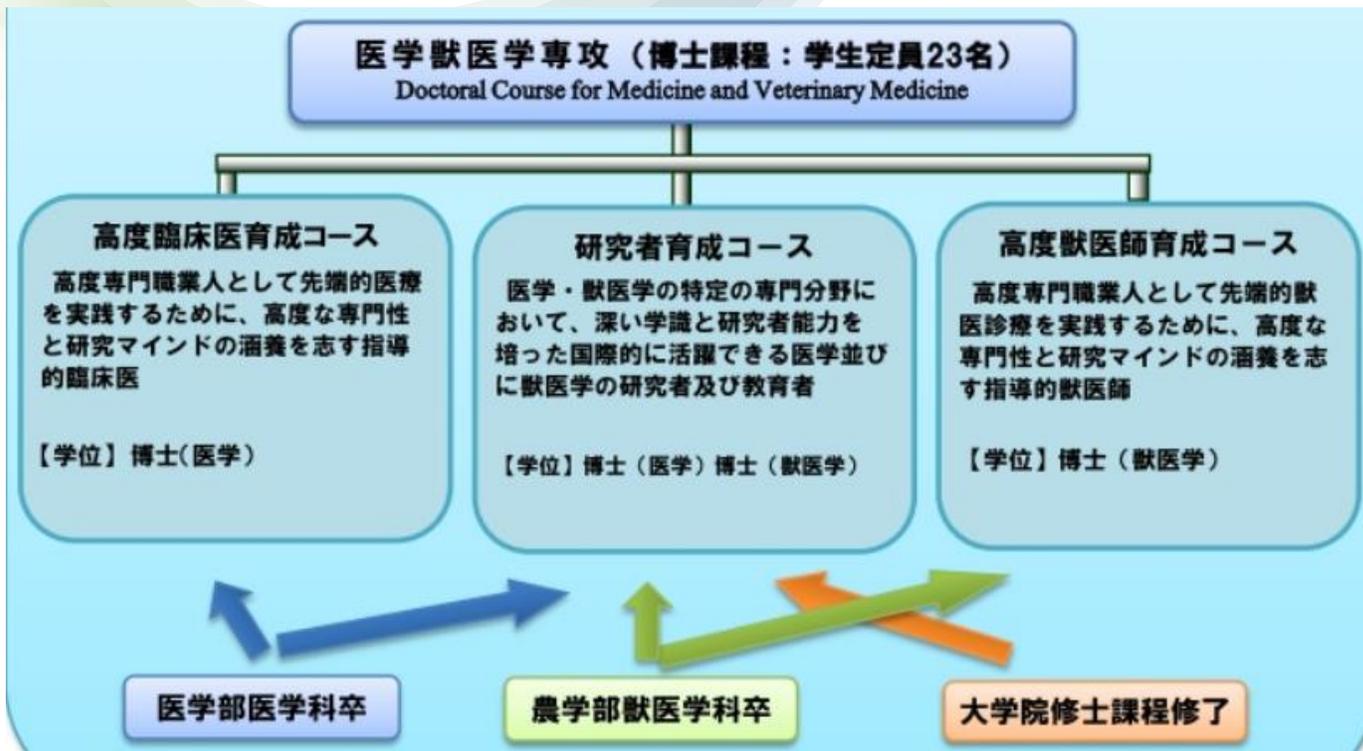
牛群に関する質疑応答



自らやる実習

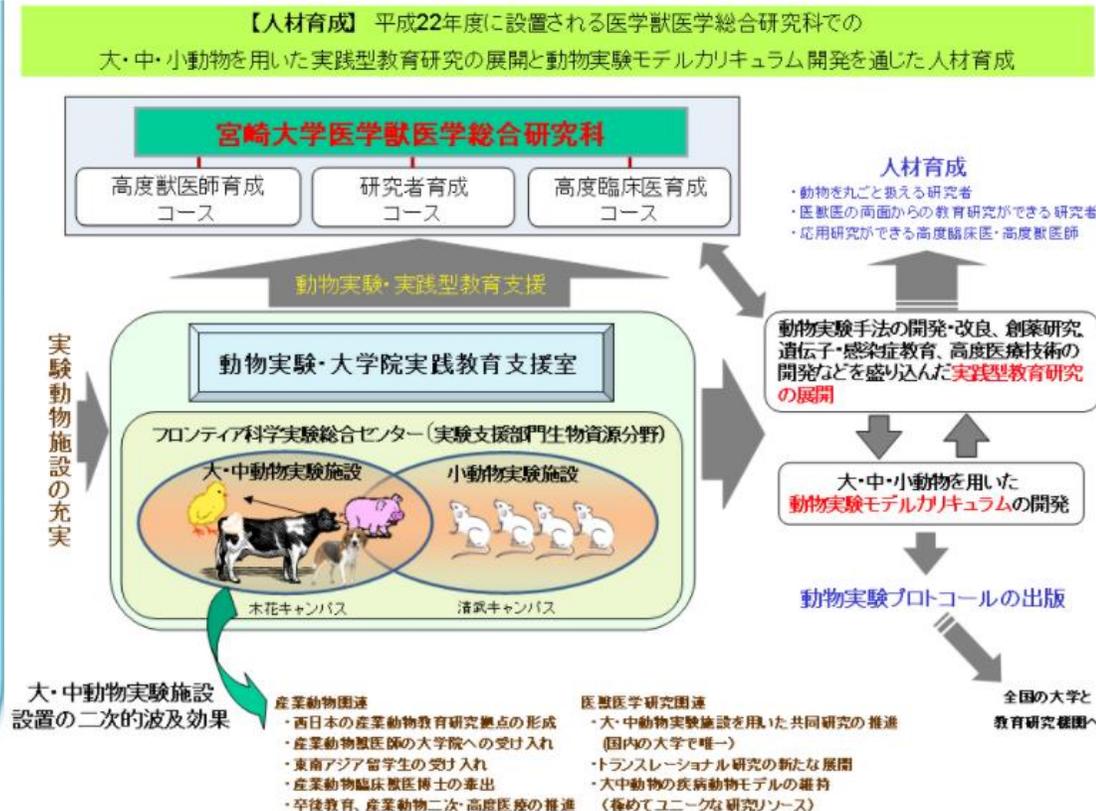
海外留学 ⇒ 「トビタテ！留学JAPAN事業」など活用  
 ⇒ 多くの学生がチャレンジ





修士課程:  
(10人)

生命科学研究者育成コース  
高度医療関連技師・サービスイノベーション人材養成コース  
生命倫理コーディネーターコース



社会人教育

産官学連携のコンソーシアム構築

産業動物関連の中核人材育成事業

8年間推進→10,533名受講生を輩出

**現場に活かせる最新のスキルが学べる！**

産業動物分野における学び直し事業



# 今後の展望・課題

## ①ポストコロナ

→学生メンタルケア・健康相談体制→健全大学生活支援

## ②(コロナ禍中)改善・強化されたweb活用

→新たな社会に対応→教育推進

## ③各講座専修実験、欧文獣医学演習、卒業論文研究

→ループリック評価導入

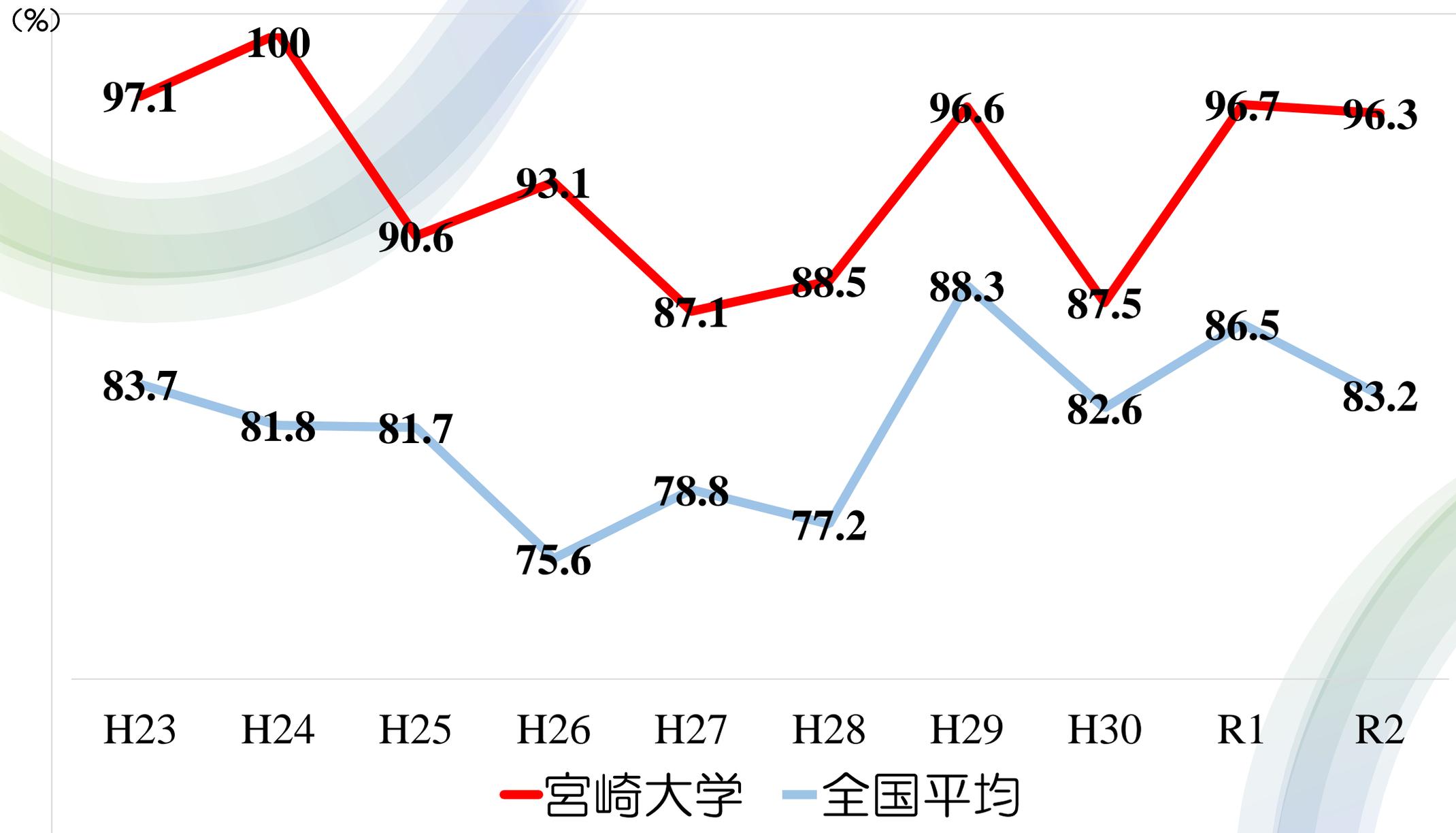
## ④獣医情報学、エキゾチックアニマル科目

→強化・整備

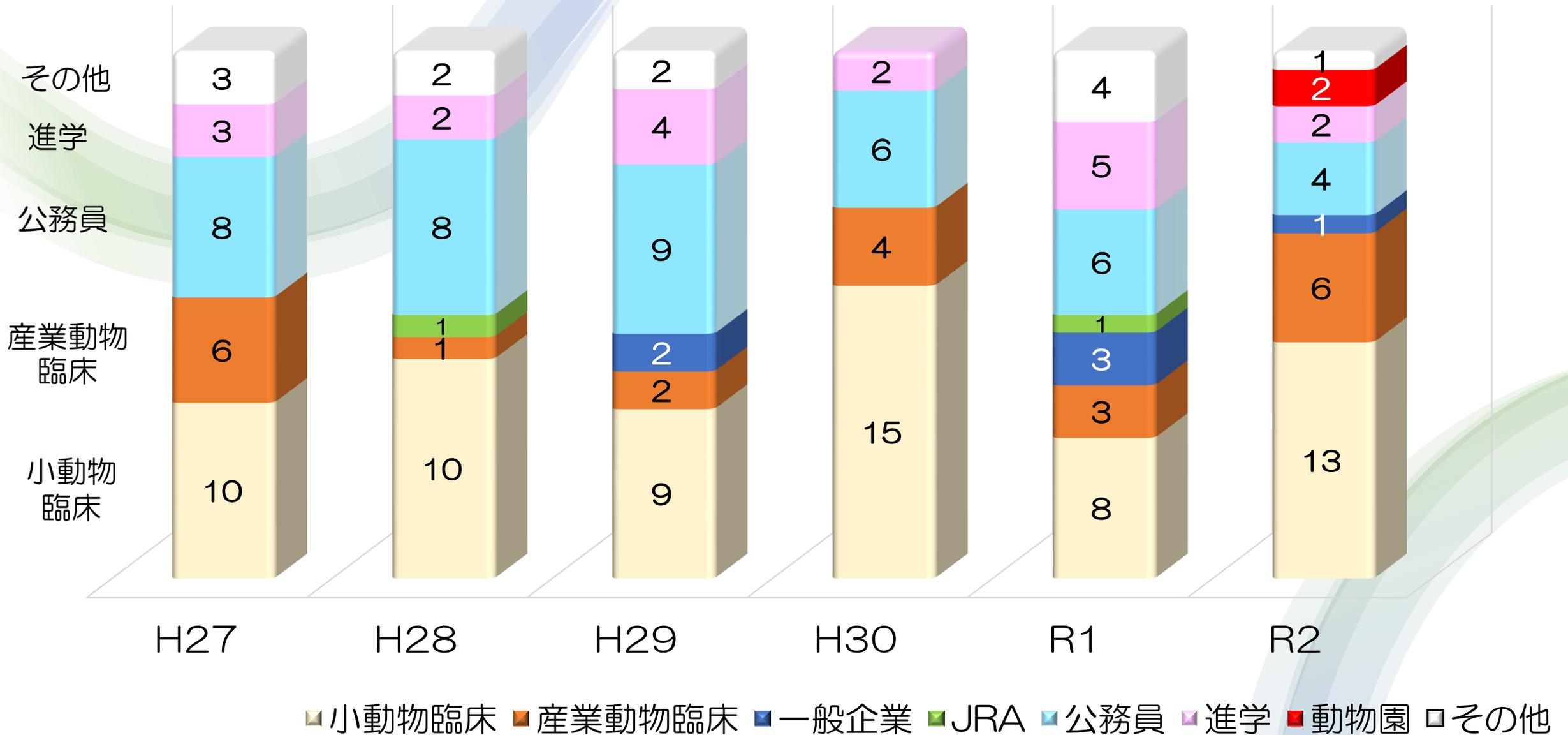
## ⑤国際機関連携実績

→自治体・企業連携→海外協働→人材養成PG充実・発展

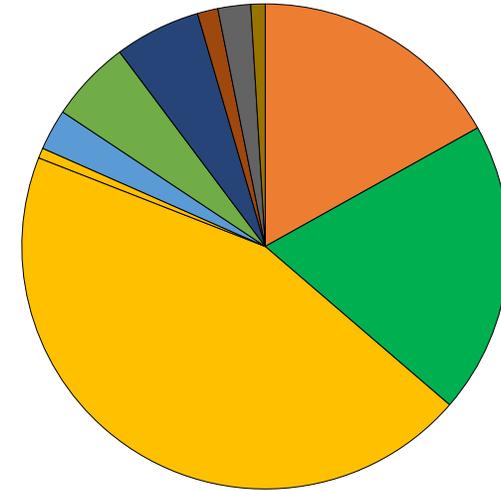
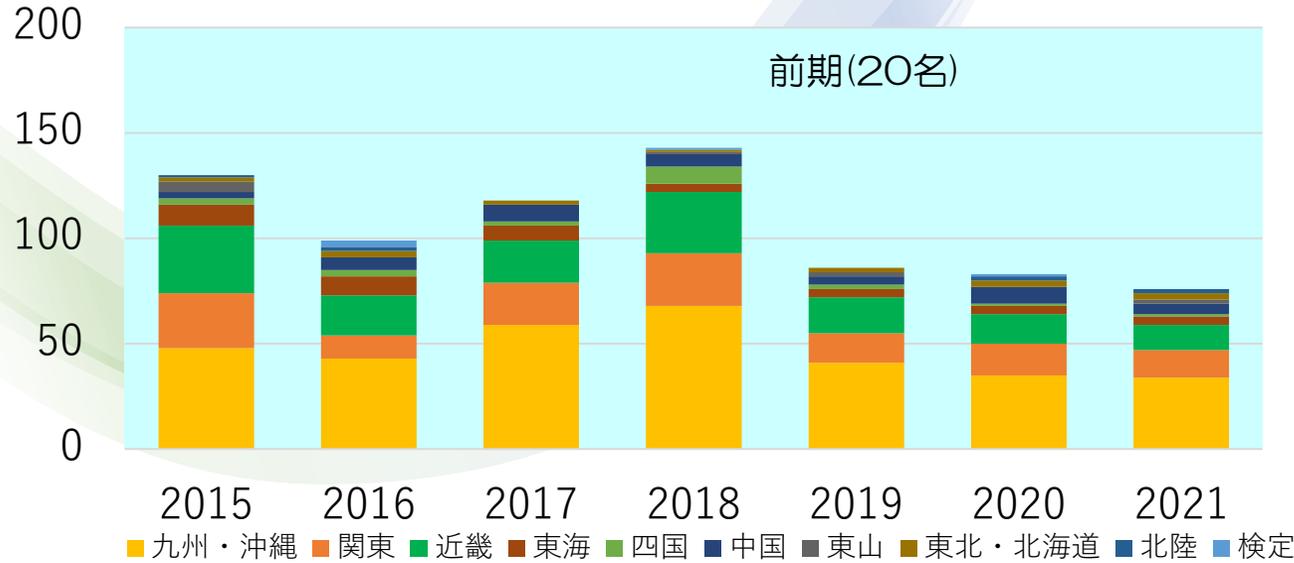
# 国家試験の合格率(過去10年間)



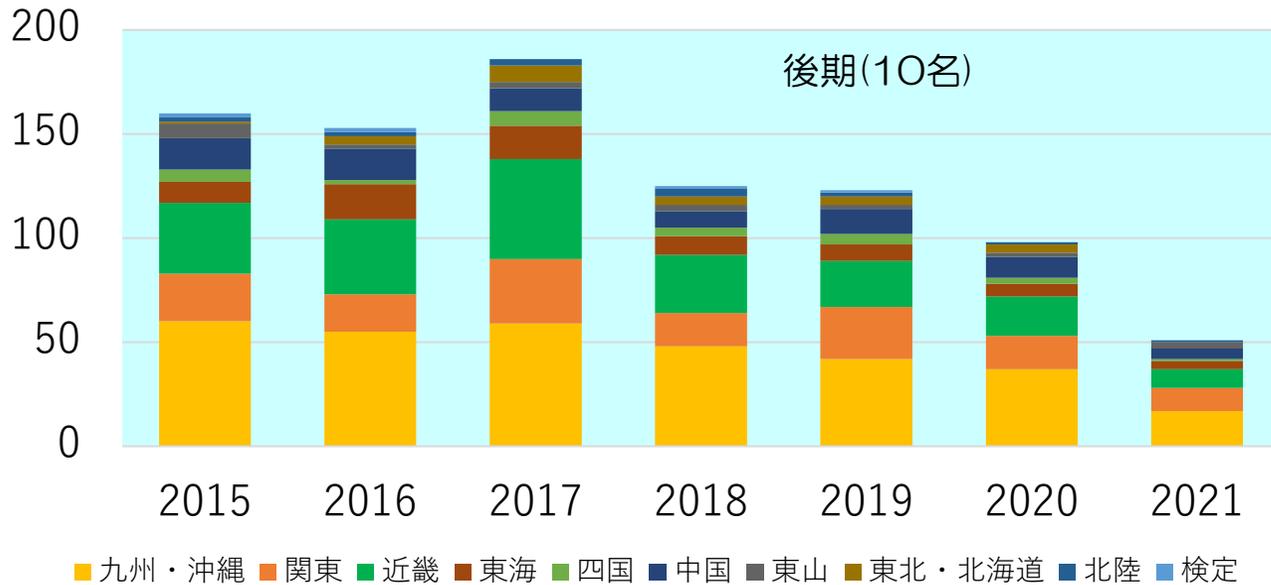
# 卒業生の就職・進学状況(過去6年間)



# 志願者地域



- 関東
- 近畿
- 九州・沖縄
- 検定
- 四国
- 中国
- 東海
- 東山
- 東北・北海道
- 北陸



2040年の日本の18歳人口→約88万人に減少  
 →現在の7割程度  
 →危機感→今後の獣医学教育の推進に努める

1クラス30人定員組織  
 学生個々に目が届き  
 教員と学生の距離間 ⇒近い(各種相談)  
 フットワークの軽さ→強み・特色  
 →学生個々への支援システムの強化・充実  
 →学生の学習環境の充実